【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】平成22年4月22日(2010.4.22)

【公表番号】特表2009-532525(P2009-532525A)
【公表日】平成21年9月10日(2009.9.10)
【年通号数】公開・登録公報2009-036
【出願番号】特願2009-503152(P2009-503152)
【国際特許分類】
Ｃ０９Ｄ 175/04　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 18/22　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 18/80　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 18/32　(2006.01)
Ｃ０８Ｇ 59/14　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 163/00　(2006.01)
Ｃ０９Ｄ 5/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０９Ｄ 175/04
Ｃ０８Ｇ 18/22
Ｃ０８Ｇ 18/80
Ｃ０８Ｇ 18/32　A
Ｃ０８Ｇ 59/14
Ｃ０９Ｄ 163/00
Ｃ０９Ｄ 5/44　B
Ｃ０９Ｄ 5/44　A

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月2日(2010.3.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ヒドロキシ官能性樹脂とブロックトイソシアナート架橋剤とが反応してウレタンコーティングを形成する反応を触媒する方法であって、前記方法が、
前記樹脂及び／又は前記架橋剤からのポリマー状リガンドを形成する工程、
金属触媒を前記ポリマー状リガンドに組み込んで、金属触媒をポリマー状リガンドと錯化する工程、
場合により顔料含有組成物を組み込む工程、
場合により前記樹脂を酸で中和する工程、及び
前記樹脂及び前記架橋剤を反応させて、ウレタンコーティングを形成する工程
を含む、ヒドロキシ官能性樹脂とブロックトイソシアナート架橋剤とが反応してウレタンコーティングを形成する反応を触媒する方法。
【請求項２】
前記樹脂及び／又は前記架橋剤からポリマー状リガンドを形成する工程が、前記樹脂及び／又は前記架橋剤のカルボキシル化を含む、請求項１記載の触媒する方法。
【請求項３】
金属触媒をポリマー状リガンドに組み込む工程が、金属触媒をカルボキシル化した樹脂

及び／又はカルボキシル化した架橋剤に組み込み、金属触媒をカルボキシル化した樹脂及び／又はカルボキシル化した架橋剤と錯化することを含む、請求項２記載の触媒する方法。

【請求項４】

ポリマー状リガンドが、樹脂から形成され、かつ、カルボキシル化する工程が、無水物と前記樹脂との反応を含む、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項５】

ポリマー状リガンドが、架橋剤から形成され、かつ、カルボキシル化する工程が、ヒドロキシ官能性カルボン酸と前記架橋剤との反応を含む、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項６】

金属触媒をポリマー状リガンドに組み込む工程が、一般式ＭＯ又はＭ（ＯＨ）$_n$又は$R^4{}_x$ＭＯ［式中、Ｍは、Ｂｉ、Ｓｎ、Ｓｂ、Ｚｎ、Ｙ、Ａｌ、Ｐｂ、Ｚｒ、Ｃｅ、Ｃｕ及びこれらの混合物の群から選択された金属であり、Ｏは、酸素原子を示し、ＯＨは、ヒドロキシドイオンを示し、ｎは、Ｍの原子価を満たす整数であり、R^4は、４～１５個の炭素原子を有する有機基であり、かつｘは１～６の整数である］の金属触媒を組み込むことを含む、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項７】

金属触媒をポリマー状リガンドに組み込む工程が、樹脂及び／又は架橋剤からポリマー状リガンドを形成する工程の前に又はこれと同時に実施される、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項８】

顔料含有組成物を樹脂と架橋剤とを反応させる工程の前に組み込み、かつ、金属触媒を顔料含有組成物中に組み込み、金属触媒をポリマー状リガンドと錯化する、請求項１記載の方法。

【請求項９】

ヒドロキシ官能性樹脂が、アミン変性されたエポキシ樹脂を含有する、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項１０】

ウレタンコーティングが、カソード電着コート又はアノード電着コートである、請求項１記載の触媒する方法。

【請求項１１】

ポリマー状リガンド及び前記ポリマー状リガンドと錯化される金属触媒の反応生成物を含む、ウレタンコーティング組成物を触媒するための錯体。

【請求項１２】

ポリマー状リガンドが、ヒドロキシ官能性樹脂及び／又はブロックトイソシアナート架橋剤から形成される、請求項１１記載の錯体。

【請求項１３】

前記ポリマー状リガンドが、ヒドロキシ官能性樹脂と無水物との反応生成物を含む、請求項１２記載の錯体。

【請求項１４】

ヒドロキシ官能性樹脂が、アミン変性されたエポキシ樹脂を含有する、請求項１３記載の錯体。

【請求項１５】

金属触媒が、一般式ＭＯ又はＭ（ＯＨ）$_n$又は$R^4{}_x$ＭＯ［式中、Ｍは、Ｂｉ、Ｓｎ、Ｓｂ、Ｚｎ、Ｙ、Ａｌ、Ｐｂ、Ｚｒ、Ｃｅ、Ｃｕ及びこれらの混合物の群から選択された金属であり、Ｏは、酸素原子を示し、ＯＨは、ヒドロキシドイオンを示し、ｎは、Ｍの原子価を満たす整数であり、R^4は、４～１５個の炭素原子を有する有機基であり、かつｘは１～６の整数である］で示される、請求項１１記載の錯体。

【請求項１６】

ウレタンコーティング組成物が、カソード電着コート組成物又はアノード電着コート組

成物である、請求項１１記載の錯体。